

請求・支払業務のデジタルシフトによる働き方改革とコスト削減 SDGsへの貢献として帳票電子化を推進

三井住友ファイナンス&リース株式会社



安心・安全のシステムを第一に、時代の変化にチャレンジ

国内トップクラスの総合リース会社である三井住友ファイナンス&リース株式会社（以下、SMFL）は、ウイングアークの「invoiceAgent TransPrint」を利用し、支払内容の通知書や請求書等の紙帳票を電子配信に切り替えることで、リモートワークの推進とコスト削減を実現している。スモールスタートのデジタル化により段階的に適用範囲を広げ、自社だけでなく取引先のペーパーレス化や業務の効率化にも貢献している。

写真左より：事務企画部 末原 千絵氏、事務企画部 部長代理 織田 智恵氏、執行役員 事務企画部長 小林 文子氏、システム開発部 副部長 大川 仁氏、システム開発部 スペシャリスト 園部 慎太郎氏、システム開発部 部長補佐 丸山 綾子氏

Summary

概要



背景・課題

- 郵送によってタイムラグが発生し、取引先への到着が遅れるリスクがあった
- 毎月大量の帳票の印刷、封入封緘、郵便費用がかかっていた
- 取引先によっては電子での送付を希望されるなど、個別対応の負担が出ていた



導入のポイント

- invoiceAgent TransPrintの導入により、帳票出力をPDFに変えるだけで自動に仕分けて配信
- 支払通知書をはじめとした様々な帳票の電子化、配信を実現できる



効果

- スモールスタート後、約1200件の取引先が電子へ切り替え
- 発送業務委託費および郵便料金が削減された
- SDGs 経営の取り組みの1つとしてペーパーレス化に貢献している

約40万社以上の取引先への電子配信の拡大と、最大1億円のコスト削減を目指す

リース契約における請求・支払関連業務では、毎月の請求書や支払通知書を印刷し郵送していたが、郵送によるタイムラグや大量の帳票印刷・発送にかかるコストが大きいという課題があった。また、この業務はコロナ禍でも出社しなければならない要因の1つでもあった。

そこでシステム開発部では、システム導入を検討。既存の帳票を継続して利用でき、他の対外帳票にも展開が見込めたことと、製品自体のシンプルな操作性を評価し、invoiceAgent TransPrintを選んだ。加えて、金融機関での導入実績も判断材料となった。

一方、事務企画部では電子化する対象帳票と先行スタートの取引先への案内方法を検討し、社内説明会を開催。2021年6月から支払通知書を対象にスモールスタートで配信開始、段階的に電子への切り替えを進めている。

invoiceAgent TransPrint は PDF での帳票出力に変えるのみで自動仕分け、配信まで行うことができる。取引先にはメールで通知が行き、専用サイトからダウンロードができるような仕組みとなっている。

第二弾として、リース契約者への請求書も一部電子化を進めている。執行役員 事務企画部長 小林 文子氏は「これから電帳法が改正されることもありますので、お客様がどのように書類を保存するのかへの意識が必要だと感じています。当社も請求書を受け取る側でもあるので、電子化のメリットやアドバイスをアナウンスできれば良いと思っています」と話す。

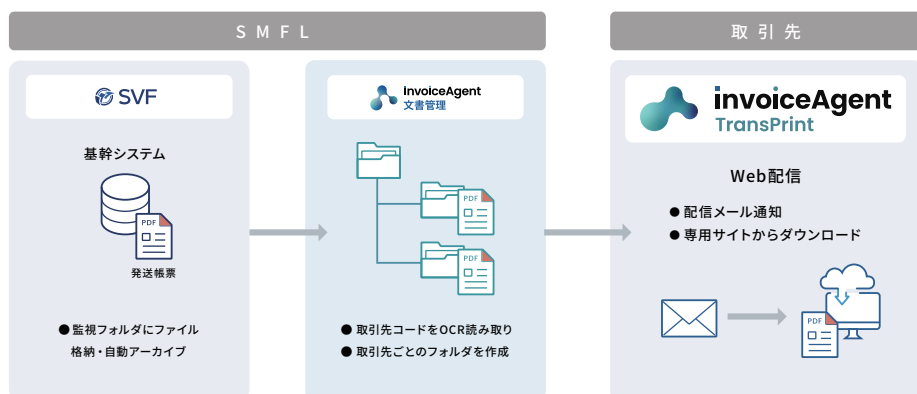
今後、対外帳票の適用範囲を広げると約40万社以上の取引先へと拡大する可能性がある。このように電子化が進むことで、従来の発送業務委託費と郵送料金のコストを最大年間1億



円削減することを目指している。

SMFLは引き続き帳票の電子化によって、自社だけでなく取引先のリモートワーク対応や業務効率化にもつなげていく考えだ。そして、SDGs経営の取り組みの一環としてペーパーレス化によるコスト削減と環境への負担を減らしていくことで、持続可能な社会へ貢献していく。

帳票電子化の流れ：帳票出力をPDFに変えるだけで自動に仕分けて配信



※2022年6月より「SPA」および「SPA Cloud」は「invoiceAgent 文書管理」「invoiceAgent AI OCR」に名称を変更しました。

SMFL 三井住友ファイナンス&リース

三井住友ファイナンス&リース株式会社

設立 : 1963年2月
所在地 : 東京都千代田区
URL : <https://www.smfl.co.jp/>

各種物品の賃貸・延払事業／営業貸付事業／その他／各事業に関連するサービス等を展開している。

サイト内でより詳しくご紹介しております。

<https://www.wingarc.com/product/usecase/413.html>

